

教科(科目)	家庭 (家庭基礎)	単位数	2	学年(コース)	2学年
使用教科書	実教出版「家庭基礎 気づく力 築く未来」				
副教材等	実教出版 2023生活学 Navi 資料+成分表				

1 学習目標

- ・人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭、衣食住、消費や環境など、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- ・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定、解決策を構想・実践、考察するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。
- ・様々な人々と協働し、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

2 指導の重点

自立をうながし、生活力を身につけさせるために、実践的・体験的な学習活動を通して、生活に必要な基礎的・基本的な知識と技術の習得を目指す。  
また、互いに協力して、主体的に家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てることを目指す。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらにかかわる技能を身につけている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。	さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。

4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらにかかわる技能を身につけている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。	さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・グループでの話しあい、発表</li> <li>・レポート作成</li> <li>・プリント提出</li> <li>・実習作品提出 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・グループでの話しあい、発表</li> <li>・レポート作成</li> <li>・プリント提出</li> <li>・授業中の取り組み 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループでの話しあい、発表</li> <li>・レポート作成</li> <li>・プリント提出</li> <li>・授業中の取り組み 等</li> </ul>

## 5 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の 観点	評価方法
4	家庭科を学ぶにあたって 第1章 これからの人生について考えてみよう 第2章自分らしい生き方と家族 1.自立と共生 2.ライフキャリア 3.共に生きる家族 4.家族に関する法律	1  1  7	教科書 副教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青年期の特徴について学ぶ。</li> <li>・これからの自分自身と社会のあり方を展望する。</li> <li>・働く意義と自分が働きたいと思う仕事を考える。</li> <li>・職業労働と家事労働の違いをまとめる。</li> <li>・「家族」の条件とは何か考える。</li> <li>・家族が抱える問題を踏まえて、家族を支えるしくみについて具体的に考える。</li> <li>・家族に関する法律の資料を見ながら、考えをまとめて話し合う。</li> <li>・家族の抱える問題について学び、具体的なサポートのあり方について考える。</li> </ul>	a b  a b c	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループでの話しあい、発表</li> <li>・レポート作成</li> <li>・プリント提出等</li> </ul>
5 6	第6章 食生活をつくる 1.日本の食文化の形成 2.私たちの食生活 3.栄養と食品のかかわり 4.食品の選び方と安全 5.食事の計画と調理 6.これからの食生活を考える	9	教科書 副教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食生活の問題点に気づく。</li> <li>・自身の食事から食品ごとに含まれる栄養素を学び、バランスの良い食事について考える。</li> <li>・食品衛生(食品の選択, 食中毒, 食品添加物)について学ぶ。</li> <li>・食事摂取基準, 食品群別摂取量などについて学ぶ。</li> <li>・日本の食料自給率や食に関する環境問題について考える。</li> <li>・環境に配慮した食生活(食品ロス等)について考える。</li> </ul>	a b c	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループでの話しあい、発表</li> <li>・レポート作成</li> <li>・プリント提出等</li> </ul>
7	第7章 衣生活をつくる 1.人と衣服のかかわり 2.衣服の素材の種類と特徴 3.衣服の選択から管理まで 4.持続可能な衣生活をつくる 5.衣服の構造・デザイン  ※被服製作実習	7      5	教科書 副教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衣服が持つ機能や安全性などについて学ぶ。</li> <li>・快適な衣服の特徴や機能について考える。</li> <li>・暮らしの中での素材衣服の性能と改善について学ぶ。</li> <li>・衣服の入手から処分までの流れを学び、衣生活の計画を考える。</li> <li>・洗剤・漂白剤・防虫剤などの種類について学ぶ。</li> <li>・環境に配慮した衣生活について世界の動向を学び、自分たちができることを考える。</li> </ul>	a b c      a c	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・グループでの話しあい、発表</li> <li>・レポート作成</li> <li>・プリント提出等</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習作品提出</li> </ul>

9	第3章 子どもと	8	教科書 副教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの発達について考える。</li> <li>・子どものからだの成長のようすを学ぶ。</li> <li>・子どもの食生活・衣生活, 安全管理について学び, 子どもとかわれるようにする。</li> <li>・子育て中の親とかわることで, 現代の親子にかかわる課題と, 解決の方向性を探る。</li> <li>・子育てにかかわる社会的課題を知り, どのようなサポートが必要か考える。</li> <li>・高齢社会の現状を知り, 身近な問題としてとらえる。</li> <li>・高齢者と家族とのかかわり, 経済, 社会での活躍などを知り, 課題について考える。</li> <li>・介護をめぐる課題の解決にはどのようなことが必要か考える。</li> <li>・社会保障制度のしくみを踏まえて将来に向けての課題を考える。・暮らしの中の支えあいについて考える。</li> <li>・ボランティア活動や地域社会でのさまざまな活動の意義について考える。</li> </ul>	a b c	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・グループでの話しあい, 発表</li> <li>・レポート作成</li> <li>・プリント提出等</li> </ul>					
10	かかわる	7			<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育てにかかわる社会的課題を知り, どのようなサポートが必要か考える。</li> <li>・高齢社会の現状を知り, 身近な問題としてとらえる。</li> <li>・高齢者と家族とのかかわり, 経済, 社会での活躍などを知り, 課題について考える。</li> <li>・介護をめぐる課題の解決にはどのようなことが必要か考える。</li> </ul>		a b c				
11	1.子どもとは						1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会保障制度のしくみを踏まえて将来に向けての課題を考える。・暮らしの中の支えあいについて考える。</li> <li>・ボランティア活動や地域社会でのさまざまな活動の意義について考える。</li> </ul>	a b c		
12	2.子どもの発達								5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア活動や地域社会でのさまざまな活動の意義について考える。</li> </ul>	a c
	3.子どもの生活										※調理実習
	4.子どもをはぐくむ										
	5.子どものための社会福祉										
	第4章 高齢者と										
	かかわる										
	1.高齢社会に生きる										
	2.高齢者を知る										
	3.高齢者の自立を支える										
	4.高齢社会を支えるしくみ										
	第5章 社会と										
	かわる										
	1.支えあって生きる										
	2.共生社会を生きる										
	※調理実習										
1	第9章 消費行	6	教科書 副教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的な消費行動について多角的に考える。</li> <li>・情報社会における生活情報について知り, その適切な活用方法について考える。</li> <li>・契約, 多様な販売方法や支払い方法について学ぶ。</li> <li>・問題商法による被害を未然に防ぎ, 早期解決する方法を考える。</li> <li>・消費者被害の事例を調べ, 消費者の権利と責任を考える。</li> <li>・これからの社会に求められる消費者の自覚と, 行動のあり方を検討する。</li> <li>・持続可能な社会の実現に向けた消費行動について考える。</li> <li>・将来のライフイベントや起こりうるリスクと, その費用について考え, 長期的な経済計画について学ぶ。</li> <li>・金融商品の特徴と選択基準を学ぶ。</li> </ul>	a b c	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・グループでの話しあい, 発表</li> <li>・レポート作成</li> <li>・プリント提出等</li> </ul>					
2	動を考える	3			<ul style="list-style-type: none"> <li>・これからの社会に求められる消費者の自覚と, 行動のあり方を検討する。</li> <li>・持続可能な社会の実現に向けた消費行動について考える。</li> </ul>		a b c				
3	1.消費行動と意思決定						2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来のライフイベントや起こりうるリスクと, その費用について考え, 長期的な経済計画について学ぶ。</li> <li>・金融商品の特徴と選択基準を学ぶ。</li> </ul>	a b		
	2.消費生活の現状と課題								2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金融商品の特徴と選択基準を学ぶ。</li> </ul>	a b
	3.消費者の権利と責任										※生活の知恵
	4.ライフスタイルと環境										
	第10章 経済的に自立する										
	1.暮らしと経済										
	2.将来のライフプランニング										
	第8章										
	住生活をつくる										
	※生活の知恵										

計 64 時間 (55 分授業)

## 6 課題・提出物等

- ・授業プリント・グループ学習時プリント等の提出。
- ・実習作品の提出。
- ・時に長期休業時の課題提出もあり。

## 7 担当者からの一言

社会の一員として考え、自身の意見を持ち、適切な行動ができるように。  
また、現在の生活および将来のライフスタイルを考えて生活を実践していけるよう、基礎知識を学び実技習得を通して、創造的・意欲的に楽しみながら共に学びましょう。

(担当:岸野 節子)